

大規模地震を想定し、本番さながら



③津波で流された自動車からの救助。本物の車を使用し、本番と同じ状況下で訓練。④土砂崩れで埋もれてしまった人を救助する訓練。猛暑の中、自衛隊や消防団、警察等が交代しながら汗だくで救助活動を行った。

(有) 千代田開発に表彰状を授与



9月10日(火)、防災支援で迅速な対応をしたとして、宮古島市から(有)千代田開発へ表彰状が授与されました。同社は、台風9号接近時に店舗のトタン屋根が風にあおられ飛びそうになっているところを、重機を使って屋根が飛ぶのを抑え、2次災害の発生を予防。店舗の裏手には病院もあり、同社の動きがなければ大変な事態になる恐れがありました。【表彰状を受け取った千代田開発の高里部長(右)と平良さん(左)】



”災害に強い島を目指して”



沖縄県総合防災訓練(主催:沖縄県・宮古島市・多良間村)が9月1日(日)に平良港トウリバー地区をメイン会場として実施されました。震度6弱の地震が宮古島で観測され、甚大な被害が発生したと想定。沖縄県職員や宮古島警察署、市消防本部、自衛隊、宮古病院など100以上の機関から総勢約2000人が参加し、本番を想定した実践的な訓練になりました。

自助・共助・公助による防災

被害想定は、2019年9月1日午前10時頃、八重山諸島南方沖150キロ付近の深さ2キロを震源とする地震規模マグニチュード9.0の地震が発生。宮古島で最大深度6弱の揺れが観測され、宮古島南西海岸や周辺離島に3〜6メートルの大津波が到達したというものです。訓練は地震発生直後の午前10時頃から開始され、午後3時過ぎまで続けられました。

企業による協力体制も確認

今回の訓練で際立っていたのが、企業による災害時応援体制。NTT西日本による非常用電源車の提供、イオン琉球のバルーンシェルター設置、株式会社ブリリアントのソーラーハウス(エアコン・携帯電話の充電可能)など、人命を守る重要な役割を果たします。